

1.	①	11.	①	21.	④	31.	③	41.	①
2.	①	12.	②	22.	④	32.	②	42.	①
3.	③	13.	①	23.	②	33.	④	43.	④
4.	①	14.	④	24.	④	34.	①	44.	①
5.	②	15.	①	25.	②	35.	②	45.	①
6.	③	16.	④	26.	③	36.	①	46.	②
7.	④	17.	②	27.	③	37.	②	47.	④
8.	①	18.	④	28.	④	38.	①	48.	④
9.	③	19.	④	29.	②	39.	①	49.	②
10.	④	20.	②	30.	②	40.	③	50.	①

1.

解答 ①

【解説】

正解は①「公式の、公の」です。形容詞の`official`は、政府や組織などによって正式に認められていることや、公的な立場で行われることを示します。`English is one of the official languages of the United Nations.`（英語は国際連合の公用語の一つです）。②「私的な」は`private`や`personal`、③「任意の」は`optional`、④「最初の」は`initial`や`first`が適切な単語です。

◆補足：`official`は名詞として「役人、公務員、職員」という意味でも使われます。`a government official`（政府の役人）。関連語として`office`（事務所、官職）があります。コロケーション：`official document`（公式文書）、`official visit`（公式訪問）。

2.

解答 ①

【解説】

正解は①「制限、限界」です。名詞の`limit`は、それ以上は進めない、あるいは許されない境界線や範囲、能力の限度などを指します。`You should know your own limits.`（あなたは自分自身の限界を知るべきだ）。`There's a speed limit of 50 kilometers per hour on this road.`（この道路の制限速度は時速 50 キロです）。②「線」は`line`、③「規則」は`rule`、④「不足」は`lack`や`shortage`です。

◆補足：`limit`は動詞として「～を制限する、限定する」という意味でも使われます。`The event is limited to 100 participants.`（そのイベントは参加者 100 名に限定されている）。形容詞形は`limited`（限られた）、名詞形には`limitation`（制限）もあります。

3.

解答 ③

【解説】

正解は③の`perform`です。この動詞は二つの主要な意味を持っています。一つは、仕事、任務、義務、実験などを計画通りに「遂行する、実行する」という意味です。もう一つは、劇を「演じる」、音楽を「演奏する」、ダンスを「披露する」など、観客の前で芸術的な行為を行うことです。`The surgeon performed the difficult operation successfully.`（その外科医は難しい手術を成功裏に遂行した）。`The orchestra will perform a piece by Beethoven.`（そのオーケストラはベートーヴェンの曲を演奏する予定だ）。他の選択肢は、①`permit`が「～を許可する」、②`persuade`が「～を説得する」、④`preserve`が「～を保存する」という意味です。

◆補足：名詞形は`performance`で、「実行、業績、成績」や「演技、演奏、公演」を意味します。`Her performance in the play was outstanding.`（その劇での彼女の演技は傑出していた）。

4.

解答 ①

【解説】

正解は①「～かなと思う、不思議に思う」です。動詞の`wonder`は、何かについて確信が持てず、「～だろうか」と考えたり、好奇心から「不思議に思う」という心の動きを表します。`I wonder what he is doing now.`（彼は今何をしているのだろうか）のように使います。②の`wander`は「歩き回る、さまよう」という意味で、`wonder`とつづりが一文字違いで紛らわしいので注意が必要です。③「～を警告する」は`warn`、④「～を無駄にする」は`waste`です。

◆補足：`I wonder if you could ...`という形は、「もしよろしければ～していただけないでしょうか」と、相手に何かを頼むときの非常に丁寧な表現として使われます。名詞としての`wonder`は「驚異、不思議なもの」を意味し、`the Seven Wonders of the World`（世界の七不思議）などで使われます。

5.

解答 ②

【解説】

正解は②の`far`で、主に副詞として「遠くに」という物理的な距離や、形容詞・副詞の比較級を強調して「はるかに、ずっと」という程度の大きさを表します。`The airport is not far from here.`（空港はここから遠くない）。`She is far more intelligent than him.`（彼女は彼よりはるかに知的だ）。他の選択肢は、①`fast`が「速い、速く」、③`near`が`far`の反意語で「近い、近くに」、④`over`が「～の上に、終わって」という意味です。

◆補足：`far`を使った重要表現は数多くあります。`so far`（これまでのところ）、`as far as I know`（私の知る限り）、`by far`（断然、ずばぬけて）などは、英検準2級レベルでは必須のイディオムで

す。`This is by far the best movie I have ever seen.`（これは私が今まで見た中で断トツに最高の映画だ）。

6.

解答 ③

【解説】

正解は③の`suggestion`で、「提案、提言、暗示」を意味する名詞です。何かを行うためのアイデアや計画を、相手に検討してもらうために控えめに示すことを指します。`Thank you for your helpful suggestion.`（役立つご提案をありがとうございます）。他の選択肢は、①`solution`が「解決策」、②`situation`が「状況、事態」、④`satisfaction`が「満足」という意味です。

◆補足：`suggestion`の動詞形は`suggest`（～を提案する）です。`make a suggestion`で「提案をする」という決まった言い方になります。`offer`（申し出）や`proposal`（より公式な提案）とのニュアンスの違いとして、`suggestion`はより非公式で、相手にアイデアを投げかけるような控えめな提案を指すことが多いです。

7.

解答 ④

【解説】

正解は④「本当の、本物の、現実の」です。`real`は、想像上や偽物ではなく、実際に存在・発生していることを示す形容詞です。`This painting is not a copy; it's the real thing.`（この絵は複製ではなく、本物です）のように使います。①「正しい」は`correct`や`right`、②「熱心な」は`eager`や`enthusiastic`、③「最近の」は`recent`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：副詞形は`really`（本当に、とても）で、`I'm really tired.`のように形容詞や動詞を強調するのに頻繁に使われます。名詞形は`reality`（現実）です。`real`と`true`はどちらも「本当の」と訳せますが、`real`は「本物か偽物か」という存在の真偽、`true`は「内容が正しいか間違いか」という情報の真偽、という観点で使い分けられることが多いです。

8.

解答 ①

【解説】

正解は①の`capital`で、「首都」や「資本」という複数の重要な意味を持つ名詞です。`Paris is the capital of France.`（パリはフランスの首都です）のように、国の政治・経済の中心地を指します。また、ビジネスにおいては事業の元手となる「資本」を意味します。さらに、形容詞として`a capital letter`で「大文字」という意味もあります。他の選択肢は、②`capitol`がアメリカなどの「国会議事

堂」で、非常によく似たつづりなので注意が必要です。③`captain`は「船長、主将」、④`caption`は「(写真などの) 説明文」です。

◆補足：`capital`はラテン語で「頭」を意味する`caput`が語源です。そこから、「主要な、第一の」というニュアンスが生まれ、「首都」や「資本」といった意味に繋がりました。コロケーションとしては`raise capital`（資本を調達する）や`the capital city`（首都）などがあります。

9.

解答 ③

【解説】

正解は③の`excitement`で、「興奮、わくわくすること」を意味する名詞です。楽しい出来事への期待や、スポーツ観戦などで感情が高ぶる状態を指します。`The air was full of excitement before the concert began.`（コンサートが始まる前、空気は興奮で満ちていた）のように使います。他の選択肢は、①`movement`が「動き、運動」、②`judgment`が「判断、判決」、④`development`が「発達、開発」という意味で、いずれも`-ment`で終わる名詞ですが意味は異なります。

◆補足：`excitement`の動詞形は`excite`（～を興奮させる）、形容詞形には`exciting`（わくわくさせる）と`excited`（興奮した）があります。`The soccer game was exciting.`（そのサッカーの試合は興奮するものだった）、`The excited crowd cheered loudly.`（興奮した観衆は大きな声で声援を送った）のように、原因と感情の主語によって使い分けることが重要です。

10.

解答 ④

【解説】

正解は④の`creative`で、「創造的な、独創的な」という意味の形容詞です。新しいものや、従来にないユニークなアイデアを生み出す能力や性質を表します。`We need a creative solution to this problem.`（私たちはこの問題に対して創造的な解決策が必要だ）のように使います。他の選択肢は、①`active`が「活動的な、積極的な」、②`attractive`が「魅力的な」、③`native`が「母国の、生まれつきの」という意味です。

◆補足：`creative`は、動詞`create`（～を創造する）の形容詞形です。名詞形には`creation`（創造、創造物）や`creativity`（創造性）があります。これらの単語のファミリーをまとめて覚えると、語彙力が効果的に向上します。コロケーション: `creative writing`（文芸創作）、`a creative person`（創造的な人）。

11.

解答 ①

【解説】

正解は①「言及する、参照する」です。動詞の`refer`は、`refer to ～`の形で使われるのが基本で、話や文章の中で「～に言及する、触れる」ことや、辞書や資料などを「～を参照する、調べる」ことを表します。`In his speech, he referred to the importance of teamwork.`（スピーチの中で、彼はチームワークの重要性に言及した）。②「好む」は`prefer`、③「反映する」は`reflect`、④「断る」は`refuse`です。これらは`re-`で始まる動詞ですが、意味は全く異なります。

◆補足：`refer to A as B`で「A を B と呼ぶ」という重要な構文もあります。`This area is referred to as "the kitchen of the town."`（この地域は「町の台所」と呼ばれている）。名詞形は`reference`（言及、参照）で、`make reference to ～`（～に言及する）や`for your reference`（ご参考までに）といった形で使われます。

12.

解答 ②

【解説】

正解は②「A が～するのを手伝う」です。`help A (to) do`は、`A`（人）が`do`（動詞の原形）という行為をするのを「手伝う、助ける」ことを表す構文です。この構文の大きな特徴は、`do`の前に`to`を付けても付けなくても、どちらも文法的に正しいという点です。`My father helped me (to) do my homework.`（父は私が宿題をするのを手伝ってくれた）。①「A に～させる」は`make A do`、③「A が～するのを許す」は`let A do`、④「A に～するように頼む」は`ask A to do`がそれぞれ対応する表現で、使役動詞や依頼の表現として区別することが重要です。

◆補足：この構文は、人が何かをするのを助ける場合だけでなく、物が何かの助けになる、という文脈でも使われます。`This dictionary will help you (to) understand English better.`（この辞書はあなたが英語をより良く理解するのに役立つでしょう）。

13.

解答 ①

【解説】

正解は①「～を提出する」です。`hand in ～`は、宿題やレポート、申込書などの書類を、先生や上司、担当窓口など、しかるべき人や場所に差し出すことを意味します。`All students must hand in their essays by the deadline.`（全ての学生は締め切りまでにエッセイを提出しなければならない）。②「～を手伝う」は`give a hand`、③「～を配る」は`hand out ～`、④「～を手渡す」は`hand over ～`などがそれぞれ適切な表現です。

◆補足：`hand in ～`とほぼ同じ意味で`turn in ～`という句動詞も使われます。特にアメリカ英語では`turn in`が好まれる傾向があります。目的語が`it`や`them`のような代名詞の場合は、`hand it in`や`turn it in`のように、動詞と副詞の間に置くのが一般的です。

14.

解答 ④**【解説】**

正解は④の`argument`で、「議論、口論」を意味する名詞です。特に、意見の異なる人々が、しばしば感情的に言葉を戦わせる状況を指します。`They had a heated argument about politics.`（彼らは政治について白熱した口論をした）。他の選択肢は、①`agreement`が「同意、合意」で`argument`とは反対の概念、②`amusement`が「楽しみ、娯楽」、③`arrangement`が「手配、取り決め」という意味です。

◆補足：動詞形は`argue`（議論する、口論する）です。`argument`には、単なる口喧嘩だけでなく、自分の主張を裏付けるための「論拠、主張」という意味もあります。`Her argument was very persuasive.`（彼女の主張は非常に説得力があった）。

15.

解答 ①**【解説】**

正解は①「進歩した、上級の」です。`advanced`は、技術などが「進歩した、高度な」状態であることや、学習コースなどが「上級」レベルであることを示す形容詞です。`Japan is known for its advanced technology.`（日本は先進技術で知られている）。この単語は動詞`advance`（進む、進歩する）の過去分詞形が形容詞化したものです。②「基本的な」は`basic`、③「古代の」は`ancient`、④「有利な」は`advantageous`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`advanced`は、特定の分野における高いレベルを指すためによく使われます。コロケーションとしては、`advanced course`（上級コース）、`advanced research`（先進的な研究）、`advanced country`（先進国）などがあります。

16.

解答 ④**【解説】**

正解は④の`rely`で、「～に頼る、～を信頼する」という意味の動詞です。通常、`rely on (upon) ~`の形で使われ、人や情報、援助などを必要とし、それをあてにすることを表します。`You can rely on me to keep your secret.`（あなたの秘密を守ることに关しては、私を信頼してくれていいですよ）。他の選択肢は、①`reply`が「返事をする」、②`relay`が「～を中継する」、③`relax`が「くつろぐ」という意味です。

◆補足：`rely on`は`depend on`とほぼ同じ意味で使えますが、`rely on`の方がより「信頼」のニュアンスが強い場合があります。形容詞形は`reliable`（信頼できる）、名詞形は`reliance`（信頼、依存）です。`This information is not reliable.`（この情報は信頼できない）。

17.

解答 ②

【解説】

正解は②の「共通点がある」です。『have ~ in common』は、「～という共通点がある」という意味で使われる、非常に重要な頻出熟語です。二つ以上の人や物の間に、共通する特徴、興味、性質などがあることを示します。例えば、好きな音楽が同じだったり、同じスポーツが好きだったりする場合に使えます。この問題の選択肢はどれも似たような状況を表せそうですが、この熟語の核心的な意味は、あくまで「共通の何かを持っている」ということです。①「同じ意見を持つ」は 'have the same opinion'、④「秘密を共有する」は 'share a secret' など、より具体的な表現があります。③「一緒に何かを持つ」も、物理的に所有している場合など、異なる状況で使われるため、最も適切なのは②となります。

◆補足：この表現は自己紹介や友人との会話でとても便利です。例文: "My sister and I have a love of music in common." (姉と私は音楽が好きという共通点があります。) このように、具体的な共通点を "in common" の前に置くこともできます。また、"We have nothing in common." (私たちには共通点は何もない。) のように否定文で使うこともできます。

18.

解答 ④

【解説】

正解は④の 'wealthy' で、「裕福な、富裕な」という意味の形容詞です。多くのお金や高価な資産を持っている状態を表します。 'He grew up in a wealthy neighborhood.' (彼は裕福な地域で育った) のように使います。他の選択肢は、① 'healthy' が「健康な」、② 'worthy' が「価値がある」、③ 'weak' が「弱い」という意味です。

◆補足： 'wealthy' は、名詞の 'wealth' (富、財産) に '-y' が付いて形容詞になった形です。類義語の 'rich' も「お金持ちの」という意味ですが、 'wealthy' は単にお金があるだけでなく、土地や株などの資産も含めた、より安定的で大規模な富を持っているニュアンスが強いです。

19.

解答 ④

【解説】

正解は④の 'competition' で、「競争、競技会、コンテスト」を意味します。スポーツ、芸術、ビジネスなど、様々な分野で勝利や優劣を決めるために競い合うことを指します。 'There is stiff competition for the new job.' (その新しい仕事には厳しい競争がある) のように使います。他の選択肢は、① 'collection' が「収集、コレクション」、② 'combination' が「組み合わせ」、③ 'condition' が「状態、条件」という意味で、つづりが似ていますが意味は全く異なります。

◆補足：`competition`の動詞形は`compete`（競争する）、競争する人は`competitor`です。`He competed against top athletes from around the world.`（彼は世界中から集まったトップ選手たちと競い合った）。コロケーションとしては、`enter a competition`（競争に参加する）や`face competition`（競争に直面する）などがあります。

20.

解答 ②

【解説】

正解は②「ついに、ようやく、最終的に」です。`finally`は、長い時間が経過したり、多くの困難があったりした末に、何かが起こったことを示す副詞です。`After hours of discussion, they finally reached an agreement.`（何時間もの議論の末、彼らはついに合意に達した）。また、手順などを列挙する際の「最後に」という意味でも使われます。①「最初に」は`firstly`や`at first`、③「最近」は`recently`、④「ほとんど」は`almost`です。

◆補足：`finally`と`at last`はどちらも「ついに」と訳せますが、`at last`の方が、待ちわびていたという話し手の感情や、それまでの苦労がより強く表現されることがあります。形容詞形は`final`（最後の）で、`the final exam`（期末試験）のように使われます。

21.

解答 ④

【解説】

正解は④の`and so on`で、「～など、その他いろいろ」という意味です。いくつかの例を挙げた後に、同様のものが他にもあることを示すために文末に置かれます。`We talked about our hobbies, future plans, and so on.`（私たちは趣味や将来の計画などについて話した）。他の選択肢は、①`and so far`という決まった表現はなく、②`and so what?`は「だから何だ？」と反発する表現、③`sooner or later`は「遅かれ早かれ」という意味の熟語です。

◆補足：`and so on`とほぼ同じ意味で`and so forth`や`etc.`（ラテン語の *et cetera* の略）も使われます。`etc.`は主に書き言葉で使われ、発音は「エトセトラ」です。会話では`and so on`や`and things like that`を使うのがより自然です。

22.

解答 ④

【解説】

正解は④の`annual`で、「年に一度の、毎年、年間の」という意味を持つ形容詞です。毎年恒例の行事や、年単位の報告書などに使われます。`The annual fireworks display attracts thousands of people.`（年に一度の花火大会は何千人もの人々を魅了する）のように使います。他の選択肢は、

①`daily`が「毎日の」、②`weekly`が「毎週の」、③`monthly`が「毎月の」と、それぞれ異なる頻度を表す形容詞です。これらは基本的な時の表現としてセットで覚えておくとう便利です。

◆補足：`annual`の副詞形は`annually`（年に一度、毎年）です。コロケーションとしては`annual event`（年中行事）、`annual report`（年次報告書）、`annual income`（年収）などがよく使われます。

23.

解答 ②

【解説】

正解は②の`task`で、「(割り当てられた) 仕事、任務、課題」を意味する名詞です。特に、しなければならない個々の具体的な作業を指します。`The first task is to gather all the necessary information.`

(最初の任務は必要な情報をすべて集めることだ)。他の選択肢を見てみましょう。①`job`は給料をもらう「職業」を、③`work`はより一般的な「労働、作業」を、④`hobby`は「趣味」を指します。

◆補足：`task`、`job`、`work`はどれも「仕事」と訳せますが、`work`は最も広義で数えられない名詞、`job`は具体的な職業で数えられる名詞、`task`は個々の作業で数えられる名詞、という違いがあります。コロケーション: `a daily task`（日課）、`a difficult task`（難しい任務）、`complete a task`（任務を完了する）。

24.

解答 ④

【解説】

正解は④の`specific`で、「明確な、具体的な、特定の」という意味の形容詞です。`general`（一般的な）の対義語で、漠然としたものではなく、はっきりと限定された事柄を指します。`The doctor gave me specific instructions on how to take the medicine.`（医者は私にその薬の飲み方について具体的な指示を与えた）のように使います。他の選択肢は、①`special`が「特別な」、②`severe`が「厳しい、深刻な」、③`simple`が「簡単な、単純な」という意味です。

◆補足：`specific`は、より詳しい情報や正確さを求めるときによく使われます。動詞形は`specify`（～を明確に指定する）、副詞形は`specifically`（特に、具体的に言うと）です。コロケーションとしては、`a specific reason`（特定の理由）、`specific details`（具体的な詳細）などがあります。

25.

解答 ②

【解説】

正解は②「～を設計する、デザインする」です。動詞の`design`は、建物、製品、ウェブサイトなどを作る前に、その機能や構造、外観などを計画し、図面に起こしたり模型を作ったりする一連の創造的な活動を指します。`She designed a new logo for the company.`（彼女は会社のために新しいロゴをデ

ザインした) のように使います。①「～を描く」は`draw`、③「～を発明する」は`invent`、④「～を飾る」は`decorate`で、それぞれ異なるニュアンスの行為です。`design`は、単に見た目を良くするだけでなく、目的や機能性を考慮した計画的な創造行為を意味します。

◆補足：`design`は名詞として「デザイン、設計、意匠」という意味でも非常によく使われます。動詞も名詞も同じ形です。そのデザインをする人は`designer`（デザイナー）ですね。コロケーション：`a simple but elegant design`（シンプルだがエレガントなデザイン）、`design a system`（システムを設計する）。

26.

解答 ③

【解説】

正解は③「～をほめる」です。動詞の`praise`は、人の行いや成果、作品などを「称賛する、ほめたたえる」という意味です。単に`say "good"`と言うよりも、より公式に、あるいは心からその価値を認めて言葉にする、というニュアンスがあります。`He was highly praised for his courage.`（彼はその勇気を大いに称賛された）。①「～を叱る」は`scolld`、②「～を祈る」は`pray`、④「～を支払う」は`pay`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`praise`は「称賛」という数えられない名詞としても使われます。`His latest work has won high praise from the critics.`（彼の最新作は批評家から高い称賛を得た）。`in praise of`～で「～を称賛して」という熟語になります。

27.

解答 ③

【解説】

正解は③の`recent`で、「最近の」という意味の形容詞です。過去から現在までの比較的短い期間内に起こった、あるいは存在した事柄を表します。`According to a recent survey, more people are working from home.`（最近の調査によると、在宅勤務をする人が増えている）のように、名詞を修飾します。他の選択肢は、①`ancient`が「古代の」、②`modern`が「現代の」、④`present`が「現在の」という意味で、それぞれ異なる時代を指します。

◆補足：`recent`の副詞形は`recently`で、「最近」という意味で文全体を修飾し、主に過去形や現在完了形と共に使われます。`Have you seen him recently?`（最近彼に会いましたか?）。`in recent years`（近年）や`recent developments`（最近の動向）といったコロケーションも重要です。

28.

解答 ④

【解説】

正解は④の`everywhere`で、「いたるところに、どこへ行っても、どこでも」という意味の副詞です。特定の場所に限らず、ある範囲のすべての場所を指します。`I've looked everywhere, but I can't find my glasses.`（いたるところを探したけれど、眼鏡が見つからない）。他の選択肢は、①`somewhere`が「どこかに」、②`anywhere`が疑問文・否定文で「どこかに」、肯定文で「どこへでも」、③`nowhere`が「どこにも～ない」という意味で、文の種類やニュアンスによって使い分けが必要です。

◆補足：`everywhere`は、`every`（すべての）と`where`（どこ）が結合してできた単語です。単語の成り立ちから意味を推測しやすいですね。`There were people everywhere.`（いたるところに人がいた）のように、文末に置かれることも多いです。

29.

解答 ②

【解説】

正解は②の`gain`で、「～を得る、獲得する」という意味の動詞です。特に、努力を重ねた結果として、知識、経験、評判、支持、体重などを徐々に手に入れるというニュアンスで使われます。`She gained confidence after winning the competition.`（競争に勝った後、彼女は自信を得た）。他の選択肢は、①`get`が「得る」の最も一般的な単語、③`win`が試合などに「勝って」賞などを得ること、④`earn`が主に労働の対価としてお金を「稼ぐ」ことを意味します。これらの動詞は、文脈によって使い分けることが重要です。

◆補足：コロケーションとして、`gain weight`（体重が増える）、`gain knowledge`（知識を得る）、`gain experience`（経験を積む）、`gain support`（支持を得る）などがあります。名詞の`gain`は「利益、増加」を意味し、`No pain, no gain.`（苦勞なくして利益なし）は有名なことわざです。

30.

解答 ②

【解説】

正解は②「～を申し出る、提供する」です。動詞の`offer`は、相手の意向を尋ねながら、物や助け、機会などを「いかがですか」と差し出したり、「～しましょうか」と提案したりする行為を表します。`They offered him a position in the company.`（彼らは彼に社内での職を提供した）。`She offered to help me with my homework.`（彼女は私の宿題を手伝おうと申し出てくれた）。①「～を命令する」は`order`、③「～を要求する」は`demand`、④「～を断る」は`refuse`です。

◆補足：`offer`は名詞として「申し出、提案」という意味でも使われます。`I appreciate your offer, but I must decline.`（あなたの申し出には感謝しますが、お断りしなければなりません）。`suggest`（提案する）との違いは、`offer`が具体的な物や助けを差し出すニュアンスが強いのに対し、`suggest`はアイデアなどを言葉で提案するニュアンスが強い点です。

31.

解答 ③

【解説】

正解は③「以前は～だった、よく～したものだ」です。`used to do`は、過去の習慣的な行動や、過去に真実であった状態を表す助動詞的な表現です。重要なのは、「現在はそうではない」という含みがある点です。`I used to live in Osaka, but now I live in Tokyo.`（以前は大阪に住んでいましたが、今は東京に住んでいます）。①「～することに慣れている」は`be used to doing`、②「～するために使われる」は`be used to do`で、形は似ていますが全く異なる表現なので注意が必要です。④「～したにちがいない」は`must have done`です。

◆補足：`used to do`と`be used to doing`の区別は、英語学習者が非常によく間違えるポイントです。`I used to drive.`（昔は運転していた）は過去の習慣、`I am used to driving.`（運転に慣れている）は現在の状態です。主語の後に`be 動詞`があるかどうか、`to`の後に動詞の原形が来るか`-ing`形が来るか、という二つの点に注目しましょう。

32.

解答 ②

【解説】

正解は②「プロの、専門職の」です。形容詞の`professional`は、ある活動を趣味（`amateur`）としてではなく、生計を立てるための職業として行っていることを示します。また、専門的な知識や技術を必要とすることも意味します。`We need professional advice on this matter.`（我々はこの件に関して専門的な助言が必要だ）。①「個人的な」は`personal`、③「公共の」は`public`、④「保護する」は動詞なので、形容詞にするなら`protective`となります。

◆補足：`professional`は名詞として「専門家、プロ」という意味でも頻繁に使われます。`He is a true professional.`（彼は真のプロフェッショナルだ）。動詞形は`profess`（公言する）、関連名詞には`profession`（専門的職業）や`professor`（教授）などがあり、語彙を広げる上で重要です。

33.

解答 ④

【解説】

正解は④の`professor`で、大学などの高等教育機関で教え、研究を行う教員のうち、最も高い階級にある人を指す「教授」です。`He is a professor of economics at a famous university.`（彼は有名な大学の経済学の教授です）のように使います。他の選択肢は、①`producer`が「生産者、プロデューサー」、②`professional`が「プロ、専門職」、③`president`が「社長、会長、大統領、学長」と、それぞれ異なる地位や職業を表します。

◆補足：`Professor`は、名前の前に付けて`Professor Smith`（スミス教授）のように敬称として使われます。省略形は`Prof.`です。動詞の`profess`（公言する、明言する）から来ており、「（専門知識を）公に教える人」というニュアンスがあります。

34.

解答 ①

【解説】

正解は①「決して～ではない」です。`be far from`～`は、物理的な距離ではなく、状態や性質が「～とはほど遠い、～どころではない」という強い否定を表す比喩的な表現です。`The result of the exam was far from what I had expected.`（試験の結果は私が期待していたものとはかけ離れていた）のように使います。②のように物理的に「～から遠い」と言いたい場合は、`be far away from`～`などを使います。③「～から始まる」は`start from`～`、④「～から逃げる」は`run away from`～`が適切な表現です。

◆補足：`far from`は、単に`not`を使って否定するよりも、その隔たりが大きいことを強調するニュアンスがあります。`The movie was not interesting.`（その映画は面白くなかった）よりも、`The movie was far from interesting.`（その映画は面白いどころではなかった）の方が、つまらなかったという気持ち強く伝わります。

35.

解答 ②

【解説】

正解は②の`cash`で、紙幣（`bills` / `notes`）や硬貨（`coins`）といった「現金」を指します。`I'm sorry, we only accept cash here.`（申し訳ありませんが、当店では現金のみの取り扱いとなります）のように、クレジットカードなどと対比して使われることが多いです。他の選択肢は、①`card`が「（クレジットカード）カード」、③`check`が「小切手」（アメリカ英語）、④`coin`が「硬貨」を意味します。

◆補足：`pay in cash`で「現金で支払う」という決まった言い方になります。反対に、カードで支払う場合は`pay by (credit) card`となります。コロケーションとしては、`cash payment`（現金払い）、`carry cash`（現金を持ち歩く）などがあります。

36.

解答 ①

【解説】

正解は①「興味、関心、利子」です。`interest`は名詞として主に二つの重要な意味を持っています。一つは、何かについてもっと知りたいと思う「興味、関心」です。`He has a deep interest in Japanese history.`（彼は日本の歴史に深い興味を持っている）のように使います。もう一つは、銀行預金やロー

ンなどで発生する「利子、利息」です。`The interest rate on this loan is very low.`（このローンの利率はとても低い）。文脈によってどちらの意味かを判断することが大切です。②「情報」は`information`、③「意見」は`opinion`、④「感情」は`feeling`が適切な単語です。

◆補足：動詞の`interest`（～に興味を持たせる）、形容詞の`interesting`（興味深い）と`interested`（興味を持った）もセットで覚えましょう。コロケーション: `show an interest in ~`（～に興味を示す）、`lose interest in ~`（～への興味を失う）、`common interests`（共通の興味）。

37.

解答 ②

【解説】

正解は②の`by the end of ~`で、「～の終わりまでに（は）」と、ある時点を経験として、それまでに動作や状態が完了することを示します。`Please submit the report by the end of this month.`（今月の終わりまでにレポートを提出してください）のように使います。①`at the end of ~`は「～の終わりに」という特定の時点を指します（例: `at the end of the movie` 映画の終わりに）。③`until the end of ~`は「～の終わりまでずっと」という継続を表します。④`from the end of ~`は「～の終わりから」となり、意味が異なります。

◆補足：期限を表す前置詞`by`と、継続を表す`until`の使い分けは非常に重要です。`I will study until 10 p.m.`（私は午後10時までずっと勉強する）と`I must finish my homework by 10 p.m.`（私は午後10時までに宿題を終えなければならない）の違いをしっかりと理解しましょう。

38.

解答 ①

【解説】

正解は①「生まれつき、生来」です。`by nature`は、人の性格や物事の性質が、後から身についたものではなく、もともと備わっているものであることを示す表現です。`She is, by nature, a very optimistic person.`（彼女は生まれつきとても楽天的な人だ）のように使います。②「自然に囲まれて」は`surrounded by nature`、③「偶然に」は`by chance`や`by accident`、④「故意に」は`on purpose`といった表現が適切です。

◆補足：前の単語`nature`が持つ「性質、本質」という意味を理解していると、`by nature`が「その性質によって」→「生まれつき」という意味になることが掴みやすいですね。類義語としては`naturally`があります。`He's naturally shy.`（彼は生まれつき内気だ）のように、文中で同じような意味で使うことができます。

39.

解答 ①

【解説】

正解は①「全体の、すべての」です。形容詞の`whole`は、何かが一部分欠けることなく、丸ごと全部ある状態を表します。`I spent the whole day cleaning my room.`（私は丸一日、部屋の掃除をして過ごした）。通常、`the`、`my`、`a`などの限定詞の後に置かれます。②「半分の」は`half`、③「一部の」は`part of`、④「空の」は`empty`です。

◆補足：`whole`と`all`はどちらも「すべての」と訳せますが、語順が異なります。`the whole day`（その日全体）と`all day`（一日中）はほぼ同じ意味ですが、`whole`は`the`の後に、`all`は`the`の前に来るのが一般的です。また、`hole`（穴）と発音が同じ同音異義語なので、リスニングやスペリングには注意が必要です。

40.

解答 ③

【解説】

正解は③の`education`で、「教育」を意味する名詞です。知識や技能を教えたり、人格を育てたりする、学校や家庭などで行われる体系的な活動全般を指します。`A good education is essential for a child's future.`（良い教育は子供の将来にとって不可欠だ）のように使います。他の選択肢は、①`emotion`が「感情」、②`election`が「選挙」、④`estimation`が「見積もり、評価」という意味で、つづりは似ていますが意味は全く異なります。

◆補足：`education`の動詞形は`educate`（～を教育する）、形容詞形は`educational`（教育的な）です。`This TV program is very educational.`（このテレビ番組はとても教育的だ）。コロケーションとしては`higher education`（高等教育）や`physical education (P.E.)`（体育）などがよく知られています。

41.

解答 ①

【解説】

正解は①「方向、方角、指示」です。`direction`は複数の重要な意味を持つ名詞です。一つは「方向、方角」（例：`in the opposite direction` 反対方向に）で、進むべき道筋を示します。もう一つは「指示、指導」で、何をすべきかを教えたり、管理したりすることを意味します。複数形の`directions`は、一般的に「道順の説明」や「使用方法」といった意味で使われます。`Can you give me directions to the station?`（駅までの道順を教えてくださいか？）。②「距離」は`distance`、③「速度」は`speed`、④「結論」は`conclusion`です。

◆補足：動詞形は`direct`で、「～を指揮する、監督する、～に道を教える」といった意味があります。`director`（監督、指導者）もこの仲間です。`He directed me to the city hall.`（彼は私に市役所への道を教えてくれた）。

42.

解答 ①

【解説】

正解は①「人気のある」です。`popular`は、多くの人から好かれ、支持されている様子を表す形容詞です。`This restaurant is very popular, so we should make a reservation.`（このレストランはとても人気があるので、予約をすべきだ）のように使います。②の`famous`（有名な）と混同されがちですが、`famous`は良い意味でも悪い意味でも単に「広く知られている」状態を指すのに対し、`popular`は人々からの「好意」というニュアンスを含みます。例えば、有名な犯罪者は`famous`ですが`popular`ではありません。③「公共の」は`public`、④「適切な」は`proper`や`appropriate`がそれぞれ対応する単語です。

◆補足：`popular`の名詞形は`popularity`（人気）です。`The band gained huge popularity in the 1990s.`（そのバンドは1990年代に絶大な人気を得た）。コロケーションとしては`popular among/with ~`（～の間に人気がある）の形を覚えておきましょう。

43.

解答 ④

【解説】

正解は④の「その土地の」です。『local』は、「地元の、地域の」という意味を持つ形容詞で、話している人がいる場所や、話題になっている特定の地域に関連することを表します。例えば、自分が住んでいる町は "my local area" と言えますし、旅行先でその土地ならではの料理を食べたいなら "local food"（郷土料理）を探すことになります。他の選択肢を見てみましょう。①の『central』は「中央の、中心的な」という意味です。②の『foreign』は「外国の」という意味で、『local』とは逆の概念を指すことが多いです。③の『private』は「私的な、個人の」という意味で、これも文脈に合いません。それぞれの単語が持つ範囲や領域をイメージすることが大切です。

◆補足：『local』は場所だけでなく、人やニュースなどにも使えます。例えば、『local people』（地元の人々）や『local news』（地域のニュース）のように使います。名詞として「地元の人」という意味で使われることもあります。例文: "It's important to support local businesses."（地元の企業を支援することは重要です。）このように、地域社会との関わりを話す上で欠かせない単語です。

44.

解答 ①

【解説】

正解は①の「とてもおいしい」です。『delicious』は、食べ物や飲み物の味が「非常においしい」ことを表す形容詞です。ただ「おいしい」というだけでなく、感動するほど素晴らしい味だ、という強い肯定的な気持ちが込められています。日常会話でよく使われる 'tasty'（おいしい）よりも、さらに褒め言葉の度合いが強い単語だと覚えておきましょう。②の「とても甘い」は "very sweet"、③の「少し

塩辛い」は "a little salty"、④の「新鮮でない」は "not fresh" であり、『delicious』が持つ「総合的に素晴らしい味」という意味とは異なります。味や食感に関する形容詞はたくさんあるので、グループで覚えると語彙が豊かになります。

◆補足：日常会話では、『delicious』の代わりに "Yummy!" や "It's so good!" のような、よりカジュアルな表現もよく使われます。ただし、『delicious』は少し丁寧な響きもあり、レストランでの食事を褒める時など、幅広い場面で使える便利な単語です。例文: "The pizza my mother made was absolutely delicious." (母が作ってくれたピザは本当においしかった。)

45.

解答 ①

【解説】

正解は①の`disappear`で、「見えなくなる、消える、姿を消す」という意味の動詞です。それまで視界にあったものや存在していたものが、見えなくなったり、なくなったりすることを表します。`The magician made the rabbit disappear.` (その手品師はウサギを消して見せた)。他の選択肢は、②`discover`が「～を発見する」、③`discuss`が「～を議論する」、④`disappoint`が「～をがっかりさせる」という意味で、いずれも`dis-`で始まりますが意味は全く異なります。

◆補足：`disappear`は、`appear`（現れる）に、否定や反対を意味する接頭辞`dis-`が付いてできた単語です。`appear`（現れる）⇔ `disappear`（消える）のように、対義語をセットで覚えるのは語彙学習において非常に効果的です。名詞形は`disappearance`（失踪、消滅）です。

46.

解答 ②

【解説】

正解は②の`set up ~`で、「～を設立する、設置する、準備する」など、非常に幅広い意味で使われる句動詞です。文脈に応じて意味を判断する必要があります。`She set up her own business five years ago.` (彼女は5年前に自身の事業を立ち上げた)。`We need to set up a meeting to discuss the issue.` (その問題を議論するために会議を設ける必要がある)。他の選択肢は、①`set off`が「出発する、～を作動させる」、③`set in`が「(好ましくない季節・天候などが) 始まる」、④`set out`が「出発する、～に着手する」という意味です。

◆補足：`set up ~`は、よりフォーマルな単語である`establish`（設立する）や`install`（設置する）の代わりとして、日常会話で頻繁に使われます。`set up a computer`（コンピュータをセットアップする）のように、日本語にもなっていますね。

47.

解答 ④

【解説】

正解は④「完全に、すっかり」です。`completely`は、物事が100%の状態、まったく不足や例外がないことを強調する副詞です。`The town was completely destroyed by the earthquake.`（その町は地震によって完全に破壊された）。`I completely forgot his name.`（私は彼の名前をすっかり忘れてしまった）。①「特に」は`especially`、②「最近」は`recently`、③「正確に」は`exactly`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`completely`は、形容詞`complete`（完全な）に`-ly`を付けて作られた副詞です。類義語には`totally`、`entirely`、`absolutely`などがあり、いずれも「完全に」という強い肯定や合意を表すのに使われます。

48.

解答 ④

【解説】

正解は④の`explanation`で、「説明、解説、弁明」を意味する名詞です。何かを分かりやすくしたり、理由を明らかにしたりすること、またその言葉自体を指します。`The teacher gave a clear explanation of the grammar rule.`（先生はその文法規則について明確な説明をした）のように使います。他の選択肢は、①`expectation`が「期待、予想」、②`exploration`が「探検、探求」、③`expression`が「表現、表情」という意味です。

◆補足：`explanation`の動詞形は`explain`（～を説明する）です。`explain`は`explain to 人 that 節`や`explain a thing to 人`の形をとりますが、`explain 人 a thing`という第4文型の形はとらない、という文法的な特徴も重要です。コロケーション：`a simple explanation`（簡単な説明）、`ask for an explanation`（説明を求める）。

49.

解答 ②

【解説】

正解は②の`biology`で、「生物学」を意味します。生き物の構造、機能、生態などを研究する科学の一分野です。他の選択肢は、①`geology`が「地質学」、③`chemistry`が「化学」、④`physics`が「物理学」で、いずれも科学の主要な分野を指す単語です。高校で理科系の科目を履修している人にはおなじみの単語かもしれませんね。これらの単語は、大学の学部名などでもよく使われます。

◆補足：`-logy`は「～学、～論」を意味する接尾辞で、`bio-`は「生命」を意味する接頭辞です。この組み合わせから「生命の学問」→「生物学」という意味になっていると理解できます。この学問を専門とする「生物学者」は`biologist`となります。コロケーションとしては、`study biology`（生物学を学ぶ）、`a degree in biology`（生物学の学位）などがあります。

50.

【解説】

正解は①の「海岸」です。『coast』は、陸地が海や大きな湖に接している場所、特に海に面した広い範囲の地域を指します。日本語の「海岸」や「沿岸」という言葉に最も近い意味を持ちます。地理に関する単語は、それぞれが指す範囲や形状が異なるため、正確に区別して覚えることが大切です。②の『bay』は、陸地が内側にカーブしている「湾」を指します。東京湾（Tokyo Bay）などが例です。③の『harbor』または『port』は、船が安全に停泊できるように整備された「港」を意味します。④の『island』は、ご存知の通り、周りを水に囲まれた「島」のことです。これらの単語の違いを地図などを思い浮かべながら覚えると、記憶に残りやすいですよ。

◆補足：『coast』を使った表現に『coast guard』（沿岸警備隊）があります。また、"from coast to coast" というと「（アメリカなどの大陸の）西海岸から東海岸まで、国中で」という意味で使われることがあります。例文: "We drove along the beautiful coast of California."（私たちはカリフォルニアの美しい海岸に沿ってドライブした。）
